

薪ストーブライフ



TEST BURN ● ヨツール F 400 / トポリーン

特集 ● 薪ストーブ設置の基本とコツ 使用過程機 ● ウォーターフォード アッシリング

IMPRESSIONS ● SCAN 57CB / ダッチウエスト エンライト FA247&248VN /

薪斧二二〇 / 手斧甲種〇四六

レポート ● デファイアント / ヨツール F 500 / 640CB / CI-1GS CB

JUN. 2009 NO. 6

薪を燃やして一儲け？ カーボンオフセット



成田真澄
株式会社 Hibana
<http://www.hibana.co.jp/>

楽しみながらCO₂を削減している薪ストーブユーザー。
もしかしたら、薪を燃やすだけで得をするかも知れないぞ！



炭素排出量の 埋め合わせ？

「今月は飲み過ぎちゃって厳しいんだよね。」

「じゃあ僕がおごるよ。」

「え、いいの！ ありがとう。来月は必ず埋め合わせをするからさ。」

「そんな貸し借りが、CO₂でもできるようになってきた。つまり、今年CO₂を排出しすぎちゃったんだよね。」

「じゃあ僕が削減した分をあげるよ。」

「え、いいの！ ありがとう。埋め合わせに少し払うからさ。」
という具合だ。

電気やガスを使い化石燃料を消費してCO₂を排出してしまったとしても、逆にCO₂を削減した人から、削減分をもらうことができる。この仕組みを「カーボンオフセット」と言う。カーボンオフセットの「カーボン」は炭素、「オフセット」は「相殺、埋め合わせ」の意味だ。木を燃やすとCO₂が大気中に放出されるものの、再び木が育つときに大気中のCO₂を吸収するため、石油やガスなどの化石燃料の代わりに薪を使うことでCO₂を削減できることは、前回ご説明した。カーボンオフセットは、こうしてCO₂を減らした人が得をするように、CO₂の削減分をやり取りできるようにする仕組みだ。

CO₂の削減分を やり取りする方法

カーボンオフセットのそもそもの始まりは、1997年に京都で行われた地球温暖化防止のための国際会議で取り決められた「京都議定書」だ。京都議定書では、日本は1990年に排出していたCO₂などの温室効果ガスの量に対して6%を、2008年から2012年の間に削減することが義務付けられている。しかし、実際に国内でこれだけの削減ができない場合には、いくつかの抜け道がある。森林でCO₂を吸収した分を削減分としてカウントする方法と、海外で省エネや自然エネルギーを活用することでCO₂を削減し、それを日本の削減分として数える方法だ。そのほかにも、さまざまなCO₂をやり取りするルールができてきた。

最近ではコンビニのドリンクや年賀状にも「CO₂を〇kg削減」とか「自然エネルギーで削減したCO₂排出権付」などと表示されたものがある。その他にも、イベントで排出したCO₂をオフセットした「カーボンニュートラルライブ」を行うアーティストや、ホームページに使用する電力を風力でまかなっている会社などもある。実は弊社の名刺も風力発電で印刷したり、イベントで使う電力はバイオ

マス発電でまかになったりしている。では、これらはいったいどういう仕組みでできているのだろうか。まずは、国や国際的な取り決めで、CO₂削減分をどこかが認証するルールをつくることだ。そしてそのルールに基づき、皆が削減分（一般的にクレジットと呼ばれる）に価値を見出し、時に貨幣と連動させてやり取りするのだ。それにより、CO₂を削減した人や、そのクレジットを購入した人は、CO₂を削減したことを表示する権利が与えられ、自分が排出したCO₂をオフセットしたとみなすことができようになる。

上記のようにオフセットの表示



薪ストーブでクッキングをすればそれもカーボンオフセットになる。「カーボンオフセット・ピッツァ」はいかが？

がされた商品を目にした消費者は、その商品を選択する可能性が高くなり、商品の販売者にはメリットが生まれる。消費者はなるべくそうした製品を購入することで、環境に貢献している企業を応援することができるといえる。

薪ストーブでも始まるCO₂のやり取り

今年3月に環境省がカーボンオフセットの認証の基準をつくり、認証を受けた案件に対し「カーボンオフセット認証ラベル」が表示されることになった。新しい環境省の制度に基づき削減した分のCO₂は「オフセット・クレジット（J・VER）」と呼ばれる。

高知県がJ・VERの排出削減プロジェクトの認証第1号（化石燃料代替となった。これは、セメント工場のボイラーの燃料を化石燃料から木に変えることで削減した899t・CO₂のクレジットを、駅ビル・ショッピングセンター大手のルミネ（株）が買い取るというものだ。クレジットを購入したルミネ（株）は、社員の通勤の際に発生するCO₂排出量を、

購入したクレジットでオフセットするという。

それではカーボンオフセットは、実際に私たち薪ストーブユーザーにはどう関係してくるのだろうか。長野県では県独自のカーボンオフセットの仕組みをつくらうと、長野県カーボンオフセット委員会を開き、薪ストーブでのカーボンオフセットの活用について議論し始めている。また、環境省によるモデル事業では、NPO森のライフスタイル研究所が木質ペレットストーブの使用により削減したCO₂をやり取りしたり、北海道美幌町が化石燃料を使用している公共施設にペレットストーブを設置し、削減したCO₂をやり取りするなどの取組を行っている。

これらはいずれも、ペレットストーブの利用者をひとまとめにしてCO₂削減の認証をしていることがポイントだ。つまり、ボイラーや発電所のように大規模に木を燃やさなくても、少量の木を燃やしているストーブのユーザーを集めることで、ある程度まとまったCO₂削減分として販売することが可能となり、商品としての価値が生まれるのだ。

アイディア次第で

楽しい商品や地域づくりを

海外のCO₂削減プロジェクトや、ボイラーや発電所での木の利

用と比べると、薪ストーブ1台ではゾウに対するアリンコのように小さな話となってしまうが、薪ストーブは太陽光発電のように私たち個人で取り組むことができる、波及効果の高い環境対策と言えよう。いずれはアリンコも大群となつてゾウを倒すような取組に広がっていききたい。

実際には、J・VERでは新規で取り組まないという認められなかった（昔から取り組んでいた認められない）、薪の場合はペレットと比べて一定の規格で揃っていないため、削減量を検証するのが難しいという問題は残っている。しかしいずれはカーボンオフセットによって、環境に良い暖房を選択したユーザーにメリットが生まれる仕組みができて欲しいものだ。

薪ストーブユーザーにとって、カーボンオフセットはまだまだ左うちわで儲かるような話ではないが、薪ストーブ利用を盛り上げる楽しいツールとしていきたいものである。薪の利用によるCO₂削減分の使い道を考えるのは、アイディア次第だろう。例えば、薪を燃やすことで削減した分のクレジットで、チェーンソーで木を切るときに排出するCO₂をオフセットする、クルマで薪を運ぶときに排出するCO₂をオフセットする、自分の家で普段排出しているCO₂をオフセットする、なんていうのはどう

だろう。

もしくは薪ストーブの製造や輸送時に排出するCO₂をオフセットした「カーボンニュートラルストーブ」を販売するのもよいかもしれない。薪ストーブライフの印刷の過程で排出するCO₂をオフセットして「カーボンニュートラルマガジン」にするのもよいし、弊社としては、「カーボンニュートラル薪」の販売にも挑戦してみたい。

近所の薪ストーブ仲間や薪ストーブ店とアイディアを出し合えば、より広がりのある取組ができるだろう。オフセット分を地域のお店で使えるポイントと連動させたり、CO₂削減分を販売して森林保全活動に寄付をするなど、地域の活性化やその他の社会貢献活動の支援に役立てることもできる。カーボンオフセットを薪ストーブユーザーならではの楽しい企画と結びつけ、CO₂削減と薪ストーブ利用増加の大きなうねりを作り出したい。



グリーン電力証書の風力マーク
 出典：日本自然エネルギー株式会社ホームページ
 (http://www.natural-e.co.jp)